令和７年度学校評価表

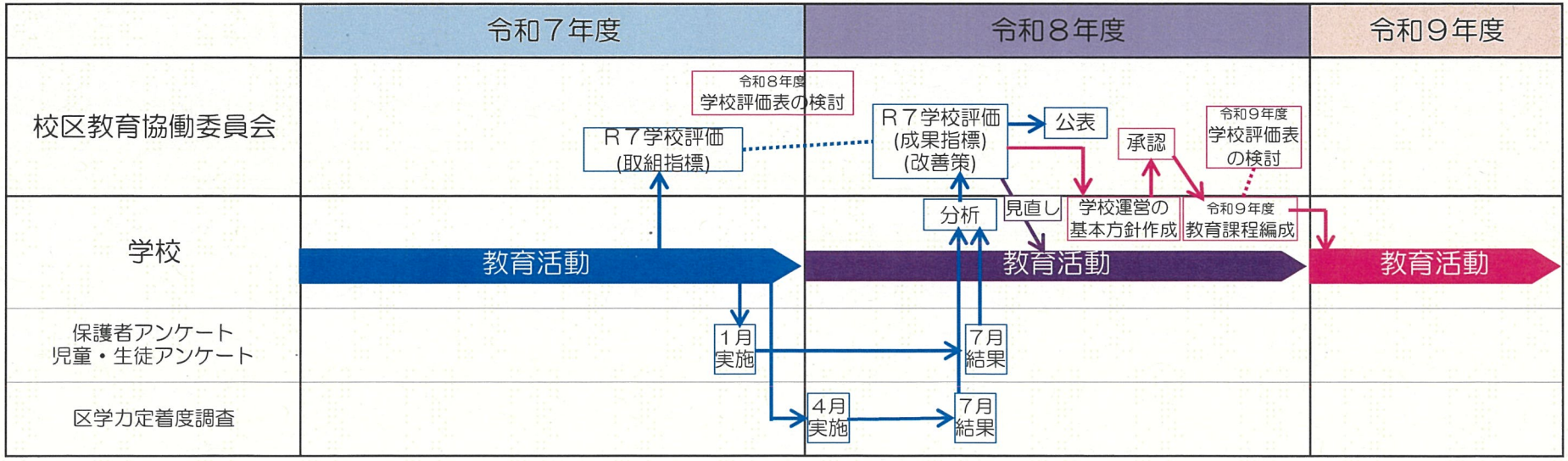
品川区立浅間台小学校	校長	谷脇　仁
浅間台小学校校区教育協働委員会	委員長	豊島　呈次

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和７年度の学校評価が令和８年度および令和９年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和７年度　学校評価　品川区立浅間台小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	①課題解決に向けて主体的に学び合う児童の育成 ②基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	課題解決に向けて主体的に学び合う授業改善を目指す。	課題解決に向けて主体的に学び合うために、課題把握と見通しのもたせ方や集団解決の場における指導の工夫を図った。	B	【課題】 思考を練り上げるための工夫 【改善策】 思考を可視化する。対話を通じて多様な視点に触れさせる。
	校内研では算数科の授業を通して、意欲的に学ぶための工夫と学びを実感するための工夫に重点を置き、授業改善を行う。	重点項目に意識を向け、授業改善を行った。授業の中では意識的に考える視点を教師が与えた。また、目的を明確にした交流をもたせた。	B	
②	区の学力調査において、全ての教科で平均を上回る正答率を目指す。	区の学力調査において、全ての教科で平均を上回る正答率を目指した。	A	【課題】 学力調査のデータはあるがデータを取り扱う知識と時間の不足 【改善策】 目的の明瞭化とデジタルツールの日常化
	品川区学力定着度調査の結果から明らかになった課題を全教員で共通理解したうえで、学力向上に向けた取組を行う。	学年ごとの課題把握だけではなく学校としての課題も把握し、授業改善を行った。見通しのもたせ方については全学年共通で行えるようにした。	B	
	各教科の基礎的・基本的な内容を押さえ、個に応じた指導と評価をもとにした指導を継続する。	基礎的な学習を繰り返し行う時間を設定した。（週４日：朝学習15分）児童の実態に合わせた明確な指示と選択肢の提示を行った。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立浅間台小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標		①主体的に社会の形成に参画する態度の育成 ②個々の発達を踏まえ、自らの進路について意識をもたせる。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	主体的に社会の形成に参画する態度を育てる	委員会活動やクラブ活動を通して、自分にできること・みんなで協力することを考えて活動できた。クリーンレンジャー（地域清掃）では異学年と交流しながら行った。	B	【課題】 仮設校舎建設のため、外部講師との交流やたてわり班活動の場所の制限 【改善策】 教室の中でもできる活動を考えていく。また、他の施設や公園などの利用も考えている。
	学校地域コーディネーターを中心とした地域との交流活動や地域人材活用を積極的に行い、学んだことが実践できる体験的な学習の場を設定する。	多くの外部講師（地域人材活用）との交流活動を行うことができた。今までとは違う知識や技術を身に付けることができるため、児童も積極的に取り組んでいた。	A	
	たてわり班遊びを月1回実施する。異学年による交流を通して、年少者が年長者にあこがれや感謝の念をもち、年長者が年少者を思いやる気持ちをもつことで人とかかわる喜びを味わわせる。	たてわり班では6年生がリーダーとして積極的に計画を立て、活動していた。運動会のたてわり班競技では異学年が互いに知恵を出して真剣に取り組んでいた。	A	
②	発達段階に応じた方法や内容を精選し、自らの進路について考える授業を行う。	自らの進路について、発達段階に応じた方法や内容を精選し、考える授業の実施に努めた。学校地域コーディネーターとの連携も図った。	B	【課題】 自分のよさや持ち味をどう自らの進路に生かしていけばよいかを理解していない。 【改善策】 自分のよさを自分自身でしっかり理解できるように市民科の授業を通して考えていく。
	ドリームジョブでは外部講師を招いて、自分の将来について考えさせる。	昨年度とは異なる外部講師を招いたことで、昨年度も参加した6年生も積極的に取り組むことができた。自分の将来について真剣に考える姿を見ることができた。	A	
	キャリアパスポートを活用して、児童が自分の変容や成長について考える機会を設ける。	市民科においてキャリアパスポートを活用し、児童が自分の変容や成長について考える機会を設けた。特に、学校行事を取り組むことで自分の変容を感じていた。	B	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立浅間台小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	①東京都統一体力テスト結果に基づく体力・運動能力の向上に努める。 ②コーディネーショントレーニング等より質の高い体力向上に努める。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	東京都統一体力テスト結果に基づく体力・運動能力の向上	児童が体の動かし方や上手くなるためのコツを理解できるような思考・判断の場面を取り入れた授業を意識して行うよう努めた。	B	【課題】 学校改築による運動制限 【改善策】 運動できる場が体育館と空いている教室だけになっていくので運動の内容や運動の行い方の工夫をする。
	「筋持久力・筋力」と「瞬発力」について課題があることが分かった。体育の授業では、楽しみながら運動に取り組む中で、課題となる種目が高まるように単元計画を設定する。	体育の授業では主運動（課題となった持久力や瞬発力）につながる基礎感覚を高める運動等を準備運動の中に取り入れた。	B	
②	コーディネーショントレーニング等より質の高い体力向上に努める。	日常の生活や遊びの中で取り入れることができる、親しみやすい運動を授業や体育朝会の中でも積極的に取り入れて行った。	A	【課題】 学校改築による校内での運動制限 【改善策】 放課後に公園等でも思いっきり体を動かせるように遊びの中に取り入れられる運動を授業の中で数多く伝えていく。
	品川スポーツトライアルの取組でもある「チームジャンプ」や「短縄連続跳び」を体育朝会の活動に取り入れることで、課題となっている「瞬発力」の向上を図る。	「チームジャンプ」や「短縄連続跳び」を体育朝会で紹介した。その後は授業や休み時間にも取り組んでいる児童がいた。	B	
	テクニカルアドバイザーによる専門的な指導やTT指導を活用した小グループでの指導を行い、体力・運動能力の向上を図る。	授業ではテクニカルアドバイザーを活用して、専門性等を生かした指導を実施できた。また、複数で見ることで発達の段階や個人差を踏まえた指導を実施することができた。	A	
③				

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和７年度　学校評価　品川区立浅間台小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標	①いじめ問題の未然防止に努める。 ②いじめ問題の早期発見・対応に努める。 ③学校・地域・保護者が一体となって情報共有を行い、問題行動の未然防止を図る。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめ問題の未然防止に努める。	毎日のデイケンや月１回のいじめDアンケート・年2回の学校風土調査を実施し、対応を心がけた。週2回の生活指導夕会を通じて、教職員に情報共有を行った。	B	【課題】 児童の人間関係の希薄さ 【改善策】 集団づくり・人間関係づくりに関する適応指導を行う。
	「ふれあい月間」の取組期間を中心に、予防的指導に重点を置いたいじめに関する授業を各教員が年3回（学期1回）行い、互いに見合う。	学期に１回いじめに関する授業を行った。また、保護者には学校公開や市民科授業地区公開講座で参観してもらい、授業後は懇談会で意見交流を行った。	B	
②	いじめ問題の早期発見・対応に努める。	定期的なアンケートを実施した。また、月１回のいじめ防止対策委員会や校内支援委員会で支援が必要な児童や対応が必要な児童の検討を行った。	B	【課題】 教育相談体制の整備 【改善策】 児童の悩み等を受け止める教育相談体制の整備を行う。気軽に相談できる環境をつくる。
	毎日の「デイケン」、月1回の「いじめDアンケート」、学期1回の「学校風土調査」を実施し、児童の実態を把握する。	アンケートの結果を教師が共有するとともに、学級担任や副担、その他の教員等で聞き取りを行って実態把握に努めた。	B	
	情報を素早く学校全体で共有し、児童への的確な指導支援を行う。	児童への指導においては学級担任だけでなく、場合によっては管理職も行った。また、指導後は関係児童の保護者にも連絡をして、状況を伝えた。	B	
③	必要な情報を共有し、学校・地域・保護者が一体となって、いじめの問題に取り組む。	クラスの状況によっては、保護者に現状を伝え協力していただいている。また、校区教育協働委員会でも状況を報告しアドバイスをいただいた。	B	【課題】 保護者との連携のタイミング 【改善策】 児童の実態を把握して、保護者へ連絡をする際は、連携のタイミングをきちんと見極める。外部機関との連携が必要なときは早期から校内支援委員会にかける、
	目安箱の利用の仕方について、児童に周知する。スクールカウンセラーや外部機関を積極的に活用する。	目安箱を設置し、利用の仕方を児童に周知するとともに、スクールカウンセラーや外部機関などを積極的に活用した。	B	
	週2回の生活指導夕会・月1回の運営報告会・年2回の「ふれあい月間」の取組で、児童の実態について情報交換を行い、早期発見・早期対応に全校体制で取り組む。	毎週開催される生活指導夕会において、生活指導上の諸問題について教職員間で情報を共有するとともに、必要に応じて保護者に連絡するなど、早期発見と対応に努めた。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成